

なぜ、社会から
性加害がなくな
らないのか？

～性犯罪被害者も被害者も生まないために～

【斎藤章佳さんプロフィール】
西川口榎本クリニック副院長
(精神保健福祉士/社会福祉士)
1979年滋賀県生まれ。現在まで3000名
以上の性犯罪被害者の治療に関わる。
著書に「男が痴漢になる理由」イース
ト・プレス、2017「盗撮をやめられな
い男たち」扶桑社、2021「男尊女卑依
存症社会」垂紀書房、2023「子どもへの
性加害一性的グルーミングとは何か」幻
冬舎新書、2023「性暴力の加害者とな
った君よ、すぐに許されると思うなか
れ」ブックマン社、2024（共著）監修
に漫画「セックス依存症になりました。」
(津島隆太作集英社、2020) など多数。



斎藤章佳さん講演会

男尊女卑依存症社会

からの脱却

2025年
3月22日(土)
14:00～16:00
(開場13:30)

会場:越谷市中央市民会館
第16.17.18会議室

資料代:500円
申込み:電話またはFAX→048-962-8052
メール:koshigaya.net@gmail.com



←QRコードからも申込みできます

主催:越谷市民ネットワーク人権・ジェンダー・教育部会

アンケートにご協力ください

今回のレポートでどの項目に関心をもちましたか。○をつけてください。

- ・ヘイトスピーチを許さない
- ・保育所・小中学校のせつけん利用、すすんで！?
- ・～持続可能な農業を支える～田んぼダムの推進を
- ・産後ドゥーラ養成に対する補助を
- ・ネットの視点
- ・赤ちゃんが産まれる、産まれた全ての家庭に支援を

その理由をお聞かせください。

県政・市政についての要望や気になっていることをご自由にお書きくだ
さい

清水泉とおしゃべり会

わたしと介護～しゃべりば「みんなの介護」～

場所:北部市民会館 会議室

日時:2月19日(水) 4月15日(火)

13:30～15:30



会員募集 社会課題の解決に向けて一緒に行動しませんか

少子化や気候変動、国家間紛争、物価高騰など、私たちが直面する社会課題は深刻化しています。課題の解決には政治の力が不可欠ですが、多くの政党は意思決定が中央集権的で、特定の利害関係に縛られがちです。このような状況の中で、投票以外の形で政治に関与し、社会課題の解決に貢献したいと考える方は少なからずいらっしゃると思います。

小規模な政党は組織がフラットで、個人の意見が反映されやすい点が魅力です。越谷市民ネットワークは地域や社会の課題に誠実に取り組む政党で、国会議員と政策協定を結び国政にも意見を届けています。特定のまずは関心のあるテーマのみ参加することも可能です。

社会課題の解決に向けて一緒に行動しませんか。老若男女を問いません。フレッシュな皆さまのご参加をお待ちしています!お気軽にお問い合わせください。 会社員 Y.O(会員)



編集後記



ネットのレポートは運営委員のみんなで作っています。私は歯科衛生士をしています。唾液は様々な予防に有効です。緊張したり交感神経が優位になると唾液が少なくなります。力を抜いて副交感神経が優位になる時間も大切です。

運営委員 かえで

越谷市民ネットワーク議員



越谷市議会議員

山田 ゆう子
中町在住



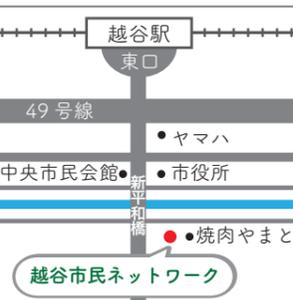
越谷市議会議員

清水 泉
袋山在住



越谷市議会議員

大田 ちひろ
南越谷在住



市民ネット3つのルール

- ①任期は最長3期12年で交代
- ②選挙はカンパとボランティア
- ③議員報酬はみんなの活動費

お問い合わせ



〒343-0023越谷市東越谷1-5-17-1F
TEL/FAX 048-962-8052
E-MAIL koshigaya.net@gmail.com

No.131
2025年2月

生き活きレポート

越谷市民ネットワーク



ヘイトスピーチを許さない

インターネット上に拡散された事実無根のデマや誹謗中傷が政治や選挙のあり方をねじ曲げ、人の命をも奪ってしまう異常な事態が起きています。誤った情報を拡散した投稿者の特定は容易ではなく罰則もないため、おびたしい数の無責任な投稿が野放しにされ、今この瞬間も苦しんでいる人がいます。今こそ、社会全体でデマや誹謗中傷が許される風潮に毅然と抗議するべきではないでしょうか。

選挙や社会のあり方を変えてしまう SNS上の暴力

他候補を恫喝したり、事務所や自宅前に押しかけてその様子を撮影しSNS上に投稿するといった妨害行為のような選挙運動が目立つようになったのは、昨年4月の東京15区補欠選挙からでした。その後、東京都知事選では候補者と関係のないポスターの掲示、兵庫県知事選では当選を目的としない立候補など立て続けに選挙の根幹を揺るがす事態が起きたにもかかわらず、現在もこうした言動がネット上で一部の支持を集めています。

既存政党に対する政治不信を背景に、大きな声で政治家に罵声を浴びせるような候補者が注目を集めても、地域で誠実に對話ができる人を議会へ送ることができなければ民主主義は崩壊します。

公職選挙法改正や誹謗中傷に対する罰則とともに、地域に日頃から政治の話ができる関係性をつくっておくことが、事実無根のデマや誹謗中傷の根絶につながるのではないのでしょうか。

外国人排斥ではなく共生を

また、デマや誹謗中傷の問題は、形を変えて社会のあちこちで起きています。

今、越谷市を含めた埼玉県南部では、SNS上で在日クルド人に対する誹謗中傷が激化し、多くのクルド人住民がいわれのないデマや誹謗中傷に怯えながらの生活を余儀なくされています。

2016年に制定されたヘイトスピーチ解消法では、特定の国の出身者であることを理由に日本社会から追い出そうとする内容の言動はヘイトスピーチであり、差別扇動は許されないとしています。

昨年末にはクルド人住民が多く居住する川口市や蕨市で外国人排斥を訴えるヘイトデモを行った団体が、さいたま地裁からデモを禁止する仮処分を下げられました。

今必要なのは、外国人排斥ではなく、文化やマナーの違いを理解し合い共に暮らしていくための支援の充実や、県や自治体におけるヘイトスピーチ禁止をうたった包括的な差別撤廃条例の制定です。

ヘイトスピーチによって誰も命を奪われない社会に

101年前に関東大震災後のデマによって起きた朝鮮人虐殺も、その根底には日本人に蓄積されていた朝鮮や中国の人たち、地方出身者に対する差別意識がありました。今を生きる私たちも差別的な発言に敏感になり、自分自身で事実を確かめることや、デマや誹謗中傷に傷つけられている人たちを守り、自分事として共に闘っていく覚悟が必要です。

ヘイトスピーチやヘイトクライムで命を奪われることのない社会を、みんなで作っていきましょう。

